

ASSOCIAÇÃO CENTRAL NIPO-BRASILEIRA NOTÍCIAS E INFORMAÇÕES

ブラジル特報



No.1667
2022年3月号

あの町この町
サントス Santos

特集 コロナ禍のスタートアップ躍進

- ・デジタル化が生んだ好循環 大国のポテンシャル開花
- ・ブラジルコスト克服の試み 規制業種に新風、政府も動く
- ・植物由来代替肉のスタートアップ事例

0円

新規会員募集中!

詳しくは P21 をご覧ください。



一般社団法人 日本ブラジル中央協会

URL <http://nipo-brasil.org/> E-mail info@nipo-brasil.org

〒105-0004 東京都港区新橋 1-18-2 明宏ビル本館 5 階 TEL:03-3504-3866 FAX:03-3597-8008 発行人: 大前孝雄/編集人: 岸和田仁



華やかな香り

深いコクとうまみ

素材を生かす澄んだ赤橙色

もう日本から持ち込まなくても大丈夫！
リベルダージ地区やお近くの日本食材店で
お買い求めいただけます。

お待ちせいたしました！
あの「キッコーマン本醸造しょうゆ」が
いよいよブラジル・サンパウロで
現地製造・販売されます。

主原料



日本での歴史ある製法にこだわり、伝統的なしょうゆの原料である「大豆」と「小麦」を使用。

現地製造



日本からの技術者の
厳しい管理のもと、
**サンパウロ・
カンピーナス工場**で
しょうゆを製造し、
ご提供します。

お問い合わせ | KIKKOMAN DO BRASIL INDÚSTRIA E COMÉRCIO DE ALIMENTOS E BEBIDAS LTDA.
TEL:011-3283-0733 E-MAIL:contato@kikkoman.com.br

ALIMENTOS

BEBIDAS



kikkoman
seasoning your life

目次

あの町この町 サントス [星 淳子]	3
ブラジル・ナウ 農業を切り口に考察するボルソナーロ政権の3年間 [林 瑞穂]	5
【特集】コロナ禍のスタートアップ躍進 デジタル化が生んだ好循環 大国のポテンシャル開花 [中山 充]	6
【特集】コロナ禍のスタートアップ躍進 ブラジルコスト克服の試み 規制業種に新風、政府も動く [松平史寿子]	8
【特集】コロナ禍のスタートアップ躍進 植物由来代替肉のスタートアップ事例 [編集部]	10
日本の中のブラジル人支援（医療通訳支援） [池 聡子]	11
ブラジル現地報告 レオン・カコフ賞を受賞した女優エレナ・イネス [布施直佐]	12
連載・日系企業シリーズ 三菱商事のブラジル事業 [篠崎幸男]	13
連載・ビジネス法務の肝 ブラジルにおける農地取得規制 [柏 健吾]	14
連載・税務の勘どころ 2022年度における直近の税制動向 [清水正男/ヴァウテル/三上智大/天野義仁]	15
エッセイ ブラジル北東部音楽フォホーの歌の世界 [服部章子]	16
ウーマン・アイ Casa Caiada と Arraiolos [小林綾子]	17
ジャーナリストの旅路 不正引き出しとカード偽造 [中村聡也]	17
連載・文化評論 ブラジル発多国籍企業の来し方行く末 松野哲朗著『ブラジル企業 多国籍化の構図』を読む [岸和田仁]	18
キャンパス・コラム 多様なヤシ類とアグロフォレストリーを研究して [牛丸武文]	19
新刊書紹介	20
連載・ブラジルあれこれ Café Lamas (2)	20
協会からのお知らせ	22



写真＝永武ひかる
「表紙のひとこと」

「見渡す限りの乾いた大地、セラード地帯。意外にも緑があり、その小道を辿ると、眩いエメラルドグリーンに行き着いた。ほとばしる清流を楽しむ人も。ここトカンチンス州立公園ジャパオンには、岩山や砂丘に滝、泉の湧く静謐なスポットもある」

永武ひかる：ブラジル撮影約30年、著作に写真絵本「世界のともだち3 ブラジル」（偕成社）等。
www.hikarunphoto.com

サントス Santos

南米大陸で最大級の港を有し、サンパウロ州沿岸部の最大都市でもある「サントス市」は、サンパウロ市から車で東へ約1時間のところにある。長崎市と下関市の姉妹都市にもなっているサントス市は、2015年のブラジル国内調査において「ブラジルで一番住みやすい町」に選ばれている。7キロにわたる長い海外線には「Jardins da Orla da Praia（海辺ビーチ庭園）」と呼ばれる庭園があり「世界最大の庭園」としてギネス登録されている。この庭園には、日本移民上陸記念碑があるが、夢と希望を胸にブラジルを目指した日本人が、124年前に到着した地が、サントスであったことに由来する。また、この庭園の先には日本移民100周年記念オブジェとして作られた芸術家「TOMIE OTAKE」のモニュメントも設置されている。

このように日本人移民にとって特別な街サントスには「サントス日本人会」があり、日本の伝統行事や日本語を後世に伝える活動が行われている。また4年に1度、サントスに海上自衛隊練習艦隊が入港する際は、盛大な歓迎行事が行われ、威風堂々と入港してくる船の姿に、多くの者が感無量の表情を浮かべる。また2008年には、現在の天皇陛下が皇太子として「サントス日本人会」をご訪問されている。当時の日本人会会長であった私の父は言うに及ばず、多くの日本人移民が、今でもこのご訪問を誇りに思っている。このような海岸都市であるサントスでは、サンパウロでは手に入りにくい新鮮な魚介類が容易に手に入る。今から40年ほど前のブラジルでは「刺身」は「peixe cru」（生魚）と表現され、そのまま食べることに違和感を覚えるブラジル人も多かった。当時、友達に「peixe cru」大好きと話したら「é louca?」（狂ってる?）と言われていたこともあったが、今では「sashimi」、「sushi」と言えば、皆から笑顔が溢れ出るようになっている。

こんなサントスの街を一望したい方には、サントス市セントロ地区にある小山「モンチセハッチ」がお勧めだ。所狭しと立ち並ぶビル群の先に、海が広がっている光景が楽しめる。一方で、サントス自慢の海全体を一望するには、サントスの隣町「サンヴィセンチ」にある小山「イリヤボルシャ」がお勧めだ。その山で潮風と冷えたビールを楽しみながら海を眺めると、なんとも言えない幸せを感じる。そして山から市街地へ戻り、長崎から寄贈された路面電車がサントス市民の足として活躍する姿を目にし、また日本を思い出す。それがサントスという街だ。



▲長崎から寄贈された路面電車



▲当時の皇太子とサントス日本人会



星 淳子（H&A コンサルティング代表）

デジタル化が生んだ好循環 大国のポテンシャル開花



中山 充
(株) ブラジル・ベンチャー・
キャピタル代表)

日本は 2010 年に GDP で中国に抜かれ、近年は IT 業界でインドにも追い越されたという感覚をもつ経営者が多い。伸びしろがあり人口規模も大きい新興国が、少子高齢化が進む日本を抜き去っていくのは当然の流れであり、ブラジルも近い将来、経済・産業規模で日本を上回る日が来ると考えていた。しかし、想像以上に早くその“近い将来”が来た。2021 年にブラジルのスタートアップ企業は 1 兆円を超える資金を調達し、一気に日本を飛び越したのである※。

未発達ゆえのビジネスチャンス

ブラジルの実力は世界クラスであることを象徴するできごとが 2021 年 12 月に起きた。ブラジルのフィンテックススタートアップである Nubank（ヌーバンク）がニューヨーク証券取引所で上場し約 500 億ドルの企業価値となった。世界の歴代フィンテックススタートアップの上場時の最高額と言われている。日本のメガバンク 2 行分の規模感だ。この大型 IPO は突出した事例ではあるが、他にも米国で上場したブラジルのスタートアップが 2021 年だけでも複数存在し、2021 年 12 月時点で 20 以上の企業が企業価値 10 億ドルを超える未上場企業、いわゆるユニコーンと呼ばれる存在になっている。

この背景にあるのはブラジルのポテンシャルの高さ、多様な顧客セグメントがいるにもかかわらずごく少数の富裕層を中心に発展してきた伝統的な経済システム、スタートアップエコシステム発展の 3 点があると考えられる。

1 点目は世界で人口が 6 番目に多く、GDP 規模でも世界トップ 10 に入る大国であるブラジルならではの潜在力である。

2 点目の伝統的システムは、大国にもかかわらず国内向けの産業の多くが富裕層・大企業をターゲットにしてきた結果、幅広い層に対するサービスレベルが低い状況を指す。私が生活拠点をサンパウロに置いた 10 年前を考えてみると、銀行口座を持っていない国民が多く、クレジットカードを持っている国民は少数派。中小企業は銀行との取引を始めるだけでも大変で、銀行からの融資を受けることは難しい。宅配サービスも郵便が中心で物の紛失や配達時間の長さなどの多くの問題があった。公共交通機関は使いにくく、高額なタクシーを多用せざるを得なかった。裏返していえば、このような経済状況はビジネスチャンスの宝庫ともいえる。

3 点目のスタートアップエコシステムの発展が従来限定的だったサービスを広く国全体に開放し、大国としてのポテンシャルを開花させたと考えられる。2021 年がブラジルのスタートアップエコシステムにとってエポックメイキングな年になったのは間違いないが、その背景にはその前から地道に新サービスを作ってきた多くの起業家たちの存在がある。10 年前の時点ではブラジルのスタートアップに対する投資は限られており、大きな成功事例も数えるほどで、リスクをとって起業する人材も少なかった。しかし 2015 年頃からベンチャー投資が徐々に増えてきたこともあって、優秀な人材が起業するようになった。2018 年には Pagseguro、Stone、Arco といった企業が米国で上場して数千億円レベルの企業価値を得たのを目の当たりにすると、ソフトバンクグループは 50 億ドル規模のラテンアメリカ専用ファンド設立を発表。実際、

1 社あたり 100 億円単位の投資をブラジル中心に行うようになる。他の欧米のファンドもラテンアメリカにより積極的に投資をするようになり、潤沢な投資資金を得て、スタートアップが急拡大する、という好循環が一気に起こり始める。なお、ソフトバンクグループは 2021 年にも追加的に 50 億ドル規模のラテンアメリカ向けファンド組成を発表している（その後 9 月には 30 億ドルとの報道も）し、当初は数百億円単位の上場直前の比較的規模が大きなスタートアップへの投資が中心だったが、最近は数億円単位の少額投資も実施するなど、きめの細かい投資体制を敷いている。同グループのラテンアメリカチームが主体的に運営し、中南米のベンチャー投資市場で存在感を増している。

パンデミックが追い風に

スタートアップの成長領域は他の新興各国の状況と似通っている。まず挙げられるのはフィンテック。これまで金融サービスに縁のなかった低所得層にサービスを提供する。上述のヌーバンクは少し前の公表データで 4000 万口座を超えており、これまでの成長率を考えると 2021 年末には 5000 万口座は軽く超えていると推定される。ブラジルでは他にもネオン、C6 バンクといった新興企業が同様のサービスを提供する。従来型の銀行と異なるのは支店を持たず、アプリとカードだけでサービスを提供する点。そのため口座手数料を取らずに無料



▶キッチンを持ち、デリバリー用の食品を調理・準備する Megabite（創業者の Pedro Neira 氏）

▶クレジットカードを活用した企業向けのオンライン決済サービスを提供する Conta Simples のサービス

で口座開設ができることでこれまで銀行口座を持てなかった層を中心に顧客獲得を可能にしている。

こうして電子決済ができるようになった消費者はデジタル決済により様々なサービスを享受できるようになる。たとえば、Netflix にとってはアメリカに次いでブラジルが 2 番目に大きな市場となった。オンラインショッピングも急速に拡大しており、enjoy という消費者間での売買サイトや Mobly、MadeiraMadeira といった家具の通販サイトはブラジルで上場したりユニコーン化したりしている。

また、オンラインで購入した商品をお届けするための物流網としてシェアリングエコノミーのプラットフォームが成長している。Uber などのライドシェアのサービスはいち早く交通インフラとして普及したし、レストランのデリバリーを担う iFood、Loggi（どちらもユニコーン）といったプラットフォームは一般人が配達員として登録し、商品を発送したりレストランでピックアップして消費者に届けたりするサービスとして一般的に利用されている。一方で Cabify というライドシェアサービスはブラジルから撤退を決め、Uber もデリバリーからは撤退するなど、サービス拡大に伴って市場での競争・淘汰も激化している。

2020 年 3 月ごろからブラジルでもコロナが一気に広がってしまい、夜間の外出禁止令が出され、ショッピングセンターが休業を余儀なくされるなど、小売・飲食業界には大きなダメージがあった。2021 年 10 月下旬から営業が大きな制約なく再開され、ようやく客足が戻ってきた感覚だと飲食店経営者などは口をそろえる。

しかし、スタートアップ業界にとってはこの一連の不便な状況は追い風になった。家から出ない消費者に対して、フィンテック企業はオンラインで口座開設・金融サービスの提供を可能にし、オンラインショッピングとその物流はまさにコロナを追い風に予想を上回る成長を遂げた。小売店等の営業が再開された現状で

も、消費者は利便性を重視する状況では継続的にデリバリーサービスを利用しており、多くの小売店・飲食店でデリバリーは売り上げの重要な割合を占めている。

仕事もホームオフィス化が進んだことで、中小企業を中心にオフィスを持たずにコストを切り詰めることが一般的になっている。都市部での特に IT エンジニアの人材不足から、地方のコストパフォーマンスの高い人材を活用する動きが定着したほか、拠点に制約されずにデータ・情報にアクセスできるクラウドサービスも普及している。人材不足は都市部に限らない。弊社の投資先である ARPAC はドローンで農薬を自動散布するサービスを提供しており、農地の季節労働者不足を補える利点もあって成長した。

消費者向けから企業向けへ

最後に、今後の動きとして筆者が注目している分野を取り上げる。上述のようにブラジルでのスタートアップのこれまでの発展は消費者向けのサービスが中心的な役割を果たしてきた。今後は企業向けサービスがデジタルの恩恵を一層受ける可能性が高い。日本でもデジタルトランスフォーメーションが話題にならない日はないが、ブラジルの場合はこれまでの業務を変革（トランスフォーム）するというよりも、これまでサービスが提供されていなかった層・領域に最初からデジタルサービスを入れることが多くなる。白紙の状態から始めるわけだから、一気に広がるポテンシャルがある。

一例として企業向けのクレジットカード市場を取り上げたい。従来の銀行から中小企業が会社のカードを入手することは難しかったが、各種オンラインサービスは請求書払いを受け入れず、クレジットカードが必須になる局面が増えている。特にデジタル業界のインフラであるアマゾンウェブサービスや、広告ブラッ

トフォームのフェースブック、グーグルなどの支払いはクレジットカードが中心である。Conta Simples というスタートアップはその課題を解決すべく、クレジットカード会社と提携し無償でコーポレートカードを発行し、決済手数料の一部を受け取る形で収益をあげるモデルで急速に成長している。

また、欧米・日本でもこの数年スタートアップの成功したビジネスモデルである SaaS（ソフトウェア・アズ・ア・サービス）は今後ブラジルでも伸びていく余地が大きい。会計士や弁護士などのプロフェッショナルサービスは、中小企業にとって負担の大きい出費であるうえ、専門家によって質の差が大きい、こうしたサービスをクラウド上で完全にシステム化して安価で安定的に提供するサービスが増え始めている。

ブラジル国内の動きに加えて注目しているのがラテンアメリカ全体を経済圏と見た市場の広がりだ。2021 年にスタートアップへの投資額が増えたのはブラジルだけではなく、ラテンアメリカ主要各国共通に見られた現象である。サービスがデジタル化することで、従来型の産業に比べて地域の壁を越えやすいことは間違いない。メキシコで自動車ローンをオンラインで提供する Kavak はソフトバンクから大型調達した後、ブラジル参入を果たした。コロンビアやペルーの起業家と話していても、ブラジルやメキシコといったラテンアメリカの大国、さらにはアメリカへの進出を当初から念頭に置いている。例えばペルー発のダークキッチン事業（デリバリー専門の飲食サービス）を展開する Megabite は創業後 8 か月でメキシコ進出を果たしている。こうしたダイナミックな起業家に巨額の資金が集まる生態系の中で新サービスの躍進は不可逆的かつ加速的に従来の産業構造を変えていくであろう。

※日本は 2021 年 8000 億円超と報道されている。https://signal.diamond.jp/articles/-/989

ブラジルコスト克服の試み 規制業種に新風、政府も動く



松平史寿子
(ジェトロ・サンパウロ次長)

ブラジルのユニコーン企業は2021年12月時点で20社以上となり、当地では、2022年もスタートアップ企業の活躍の場が増え、新たなユニコーン企業の誕生も予想されている。行政手続きの煩雑さからビジネスがやりにくい国として知られるブラジルにおいて、近年、なぜスタートアップ企業が数多く登場し、このうち相当数がユニコーン企業になるまで成長しているのか。本稿では行政の壁や政府の施策を踏まえて、スタートアップ企業の活躍の要因を考える。

ブラジルでは以前から法律、規制、税制などが複雑なことから、手続きや準備を含めて、想定以上にコストや時間を要し、ビジネスを阻害する課題が多くあると言われる。これらを「ブラジルコスト」と総称しているが、これらのコストを少しでも軽減させるためにスタートアップ企業のテクノロジーが活かされている。

そんな中、新型コロナウイルスが発生し移動制限が生じ、企業はビジネスの実効性・円滑化・効率化を迫られ、従来業務の遂行や手続きを見直すことになった。その際に、多くの企業やサービスが、スタートアップの技術等を活用することで既存ビジネスの維持や新たなビジネスを展開した。コロナが追い風になり、スタートアップ企業は、従来の動きに加え、さらに課題を克服、解決するツールを提供することになった。

政府の起業家向け支援

ブラジル連邦政府は、コロナ以前より起業家支援のために、またスタートアップ企業のビジネス円滑化や優遇策に向けた枠組み作りに取り組んできた。ブラジル政府自身も、官僚主義的な手続きコストを排除すべく、2019年より「デジタ

ル政府戦略2020～2022」を策定し、スタートアップの力を借り行政手続きの効率化・円滑化を進めている。ブラジル政府によると、同戦略の目標として、2022年末までに4,700の公共行政サービスを100%デジタル化することを目指しており、5年間（2020～2025年）で推定380億レアルの削減効果を見込めるとのこと。この動きを加速させるためにも、ブラジル政府はスタートアップ企業が活動しやすい法整備ならびに規制緩和を進めている。企業設立の簡素化や特許登録手続きを優先的に実施する方法など、少数精鋭で取り組む起業家たちにとって事務手続きを簡略化しスタートアップの創出やビジネスを軌道に乗せるチャンスを提供している。

2019年11月、イノベーションを創出するスタートアップ企業に対する連邦政府や行政機関等の支援内容を明確にするために、国家委員会を設置。その後、2020年11月に連邦政府の企業支援プログラムの総合ポータルサイト「Startup Point」を開設して各種プログラムを整理して案内している。

そして、2021年8月には、スタートアップ法が施行された。スタートアップ企業を対象を定義化し、スタートアップを支援する法的枠組みを定めた。これは、起業家と投資家に対して法的観点での安全確保と優位性を明示することが目的だ。



▲政府がスタートアップ企業支援のために開設したサイト「Startup Point」(<https://www.gov.br/startuppoint/pt-br>)

第1に、投資を促進させるべく、エンジェル投資家の定義を明確にし、法人だけでなく個人の投資を認めた。また株式資本に参加しない投資家、会社経営の権限や決議権を有さず、会社の債務にも関与しない投資家も認めた。これにより、投資家の故意や悪意ある行為の場合を除き、スタートアップの債務に対して投資家が責任を負わないケースも認められる。投資家の責務・負担を軽減することで、多くのエンジェル投資家からのスタートアップ企業への投資を増やすのがねらいだ。

次に、規制サンドボックス制度（＝規制状況下において実証実験できる制度）が設けられた。これは、スタートアップ企業の技術を用いて官僚主義的な規制を簡素化し、柔軟性を高める新しいビジネスモデルや製品・サービスを試験的に実証実験する制度である。革新的なテクノロジーを有するスタートアップ企業は、規制当局による監視下で、自社のビジネスモデルや技術を試すことができる。この実証実験の結果次第で、規制を撤回・緩和することが可能になる。

第3に政府の公共入札にスタートアップが優先的に参画できる。政府調達に関する現在の法律では、スタートアップが開発した革新的なソリューションを契約することは不可となっていたが、これにより政府が革新的なスタートアップの技術を用いて、現状の課題解決につながる技術を容易に取得できるようになる。

規制緩和でフィンテック成長

一般的に、ブラジル政府における法令は各種規制を細分化して、制定されているため、新しい業種やサービスが生まれ、同時に法律を定めて新たに規制する

▶フィンテックの成長要因
(ロゴはユニコーン4社のサイトから)

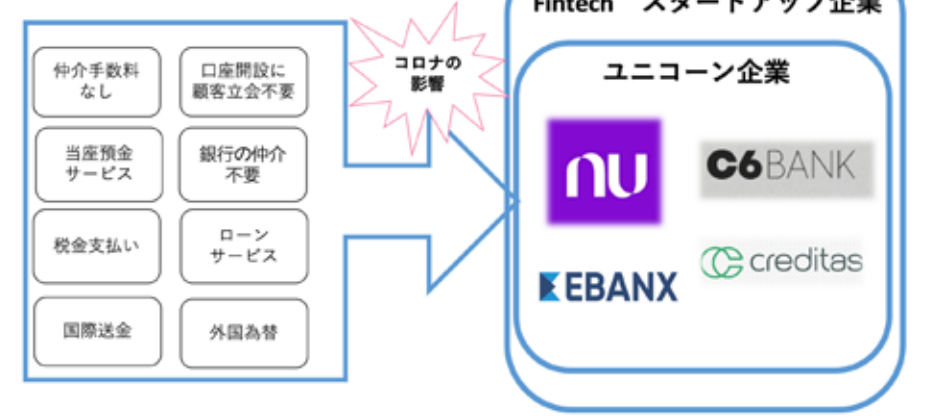
傾向がある。ブラジルのスタートアップが活躍する際は、各産業においては規制を乗り越えるケースと規制皆無の世界に入り込むケースがある。Uberや99（ノビノビ）のライドシェアサービスは規制のない世界で誕生した企業の代表的な例だが、デジタル技術を生かして規制を乗り越え、コロナ禍においても順調に伸びた金融のフィンテック（Fintech）と不動産テックのケースについて紹介したい。

ブラジル政府は金融民主化政策AgendaBC#を長期に渡って進めてきた。これまで限られた金融機関で対応してきたサービスに対し、競争を生む機会を段階的に提供してきた。2018年以降、政府は随時規制を改め、既存の金融機関しかできなかったサービスにフィンテックが参入できるようになった。仲介手数料が必須とされたり、ローンサービスなど各種サービスへの制限があったが、柔軟化のおかげで徐々にフィンテックの参入が実現している。例えば、税金を納付できる金融機関は、一部の銀行に限られていたが、2021年1月からフィンテックでもできるように制度変更された。これにより、一部の銀行で分けていた年間100億レアルを超える納付手数料が競争にさらされることになった。フィンテック側は、これをさらにガスや水道などの公共料金にも範囲を広げるよう働きかけている。こうしたフィンテックの参入により、消費者側からしてもオンラインでの支払いが容易になり、サービス手数料が安価になるなどメリットが大きい。

さらに、2021年に段階的準備を進めていたOpen Banking※1サービスの開始準備も終盤を迎えており、金融サービスの世界はさらに顧客の利便性が増すだろう。

筆者も公私に渡り、銀行を利用するが、口座開設に関する書類の準備や窓口での手続き・対応事情が一筋縄ではいかず、何度もやりとりを繰り返すことが多い。デジタル金融機関を利用すると、銀行に

規制緩和・見直しにより 新たなサービスへの参入が可能に



足を運ぶことなく人を介さずに数日で口座を開設できる。また全ての支払いが同一の金融機関で完遂するならば、今後顧客は複数の金融機関等の口座を保有する必要はなくなるだろう。

これらの一連の動きを後押しするように2020年11月よりブラジル中央銀行が開発、導入した即時決済システム（PIX）の存在も大きい。PIXはこれまで銀行間で取引していた（送金・カード決済・振り込み）を、中央銀行が一括管理し、支払い側も受け取り側も双方の口座情報を開示せず、限られた登録情報のみで24時間365日取引が可能とするシステムだ。多くの人が利用しており、送金時に使うPIXキーの登録数は2021年12月時点で3億8000万に達した。PIX誕生以降、詐欺等のリスクも指摘されるが、中央銀行は詐欺ビジネスへの防止策のためのシステムを再構築するなど、常時この機能の見直しをしている。即時に個人間での支払い取引ができることから利便性が評価され、12月時点で14億5800万件の支払いに使われている。さらなる機能や利便性が求められることで新たなフィンテックが活躍する可能性は十分にあるだろう。

変革起こす不動産テック

不動産業もブラジルにおいて、保守的かつ伝統的ビジネスを継続している産業の一つであった。コロナ以降この業界のスタートアップが目まぐるしく活躍し、不動産テック※2が飛躍している。不動産テックに投資するTerracotta

Venturesによると、同産業に関与するスタートアップはこの5年で235%増、840社が活躍しており、この2年のコロナ期間（2020～2021年）で270以上の不動産関連テックが増えたという。一時金利が低かったことで不動産投資に走る顧客も増え、不動産業を後押ししている。

これまで不動産物件の賃貸・売買契約に至るまで、信用保証のために多くの必要書類や署名が必要で、書類準備と契約に至るまで多くの日数を要していた。しかし、スタートアップの技術により、携帯アプリやホームページを用いて売買契約までを完了できるシステムを構築し、官僚主義的な事務手続きと時間のコストを大幅に削減した。コロナ禍で極力人を介さず、バーチャルでの内覧、不動産鑑定、電子署名、資金の確保、不動産物件の内装デザイン、改修サービスなど新しいサービスがデジタルの世界で提供されている。不動産売買を手掛けるユニコーン企業のLoftは、一般的に平均16カ月要した売買契約を、平均4カ月で契約に至るビジネスモデルを展開している。現在は不動産企業と連携しつつ、市場の抜本的改造に取り組んでおり、業界をけん引するまでになっている。

コロナ以前からスタートアップによる課題解決のチャレンジはあったが、コロナを契機に時と場所に縛られることなく、デジタル技術による利便性・効率性の追求がさらに続く。10月の大統領選による不確実性を懸念する人もいるが、このスタートアップ業界の動きは止まることはないだろう。

※1. Open Banking：各口座名義人からの許可を得て、金融機関等の参加機関が他の参加機関のプラットフォームに直接接続でき、顧客が承認したデータにアクセス可能となる。これにより、金融機関を超えたサービス利用が可能になる仕組み。
※2. 不動産テック：不動産業務にかかる技術を有する企業。不動産の販売や賃貸だけでなく、家やアパートを探している人にも役に立つサービスを提供する。Prop TechまたはRE Tech、Real Estate Techと呼ばれる。

植物由来代替肉の スタートアップ事例

『ブラジル特報』編集部

▼ Fazenda Futuro の植物肉ハンバーグ



プラントベースフード (植物由来代替肉)の市場規模

2007年米国カリフォルニアで創業されたビヨンド・ミートが、植物由来代替肉のスタートアップとしてはバイオニアといわれているが、今や米国や欧州では100%植物由来のハンバーグやソーセージを食することが日常化しつつあるといっても過言ではない。食品開発業界では「プラントベースフード」と呼ばれているが、関連業界メディアの推計によれば、2020年度の世界の植物由来代替肉の市場規模は、約43億ドル(約4,900億円)であり、5年後の2025年の見込み数値は83億ドル(約9,500億円)となっている。

大豆、エンドウ豆、ひよこ豆などの豆類をベースに、植物油(コナツオイル、ヤシ油など)を加えて成型したものが主体だが、牛肉、豚肉、鶏肉ばかりか魚肉そっくりの植物ミート製品が世界各国で製造・販売されるようになってきている。

米国のNPO法人グッド・フード・インスティテュート(GFI.org)の報告によれば、米国の食肉市場全体に対する植物由来代替肉のシェアは1.4%となっており、このシェア数字は伸長中とのことである。

米国以外の事例をみると、ツナ缶詰分野では世界最大手のタイ・ユニオンは、代替シーフードの事業化に取り組んでおり、すでに欧州では代替ツナの販売を開始し、米国市場への進出も決まっている。

日本でも、食品会社の多くが代替肉製品を開発・販売しており、いくつか例をメモしておく、キュービー(大豆ミート

ミックス)、大塚食品(ソイミート)、日本ハム(ナチュラルミート)、伊藤ハム(大豆ミートシリーズ)、マルコメ(大豆のお肉)、丸大食品(大豆ミートハンバーグ)、モスバーガー(大豆バーガー)、といったところだが、現在一番注目を浴びているのが、熊本に本社・工場を有するスタートアップDAIZ社(創業2015年)だろう。原料となる大豆も多くの代替肉企業が使用する大豆ミールではなく発芽大豆を丸ごと活用していることで、味・風味も栄養価も格段と優れた代替肉の開発に成功したため、丸紅、味の素、丸井などからの出資も得て急成長中である。

ブラジルの事例： Fazenda Futuro

自ら創業したナチュラルジュース会社“Do Bem”をビール最大手アンベウに売却して得た資金を元手に、マルコス・レタ氏が仲間と数年前から技術開発を行っていた植物由来代替肉のスタートアップFazenda Futuro(未来農場)を立ち上げたのは2019年のことであった。

現在ブラジルでも海外でも注目されている同社の主要商品群は、植物性ハンバーグ、植物性ミートボール、植物性ソーセージ、植物性ツナ肉(フレークタイプ)等である。

昨年9月に登場した植物性ツナ肉は、おいしさ、手軽さ、価格いづれもブラジルの中産層購入者を満足させたようで、同社の加工数量は急増中である。リオ州ヴォルタ・ヘドンダに所在する加工場の生産数量は、月産能力115トンでスタート、2020年9月の増設によって月産能力600トンとなったが、2021年11月、投資ファンドから3億レアル(約63億円)を調達し、更なる増設を行った結果、現在月産能力1,300トンとなっている。同社の代替肉製品の原材料は、大豆・ピーツ・エンドウ豆・ヒヨコ豆などであるが、代替ツナ肉の主な原材料は、大豆・エンドウ豆・ヒヨコ豆・

オリーブ油・赤カブとのことだ。

同社製品の販路はブラジル国内にとどまらず、海外(米国や欧州)への輸出も拡大中で、国内では「Fazenda Futuro」、海外では「Future Farm」ブランドで市場を攻略中である。そんな成長企業だけに、企業価値(時価総額)は昨年10月時点では7.15億レアル(約150億円)だったが、現在(22年1月)は22億レアル(約460億円)といわれている。

同社製品の販売拡大の要因は、品質への高い評価もさることながら、価格(米国の競合製品より1割以上安価)にあるとみられている。いうまでもないことだが、植物性タンパク質由来の代替肉は、大規模畜産や水産資源乱獲が引き起こしている様々な環境負荷をより少なくする効果が期待されており、この文脈でも「未来農場」というネーミングは大いにプラスに機能している。

食肉大手が続々と参入中

ブラジルのファストフードチェーンで、最初にヴェジバーガーの販売を開始したのはバーガーキングで2015年9月のことであった。最大手マクドナルドのチェーン店で植物由来のハンバーガー(McVeggie、DuploVeggie)が登場したのはそれから3年後の2018年11月であった。

バーガーキング向けのヴェジバーガーを製造したのは食肉大手のMarfrig社であったが、2019年から2020年にかけて、ほとんどすべての食肉加工大手が植物由来代替肉の加工品を事業化している。BRFはSadia Veg&Talブランド、Seara(JBSグループ)はIncrível Burger(アンビリバブル・バーガーの意)、ユニリーバはVegetarian Butcher、老舗牛肉チェーンWesselはMeta Foodsと組んでMeta Burger、といったところだ。

ブラジルにおいてもベジタリアン食品全般の需要が漸増中であり、このトレンドが更なるビジネスチャンスを創出している。今後の展開を注視したい。



▲ SEARA の植物肉ハンバーグ

日本の中のブラジル人支援 (医療通訳支援)

NPO法人 多言語社会リソースかながわ(MIC かながわ)



池 聡子
(『ブラジル特報』編集委員)

2021年の在留外国人は約280万人(ブラジル人は約20万人)。彼らを支援するために、自治体を中心に様々なサービスが立ち上がっている。今回はその中から、神奈川県NPO法人「MIC かながわ」取材したので、その活動内容について報告したい。

MIC かながわの概要

2002年創設。13言語の通訳に対応。登録通訳者は196人。ボランティアとして活動している。協力医療機関は70カ所(基幹中核病院中心)。

ポルトガル語通訳について

※派遣実績(2019): 499件(英語、中国語、スペイン語に次いで4番目に多い)
※通訳登録者数: 現在24名。(ブラジル人6人、日本人18人。3/4が女性。最高齢は83歳の男性。居住地は神奈川県と東京で半々)

Q: 設立の目的は?

A: 1990年の入管法改正により、南米の方々が「定住者」として入国できるようになり、在日外国人が生活していく上での困難性が顕在化した。なかでも、病院での言葉の問題が深刻である旨、外国籍県民会議から提言があり、それを解決するために設立された。

Q: 医療通訳の特徴は?

A: 「足さない」「引かない」「変えない」が通訳の基本だが、医療通訳では、患者に「寄り添う」という対人援助の姿勢も必要だ。元々、患者の方が医療従事者に対して引き気味になりがちだが、外国人の場合、それに言葉がわからないというハンディが加わる。その差を埋めるため、より患者の気持ちを理解することが大切となってくる。

但し、患者に同情してのめり込んでしまうと、患者本人の自立が妨げられ、また、

医師等からの信用も得られなくなってしまう。患者に寄り添いながらも中立を保つということを心掛けている。

診察の前後に、病気や今後の生活の不安や、医療以外の手続きのことで相談される場面もあるが、その場合は病院のソーシャルワーカーや外国人窓口相談(ワンストップセンター)を案内して繋ぐようにしている。患者自身が日本で自立して生活できるよう促すため、相談先の電話番号を教え、自分で電話して相談をする姿勢を持ってもらうようにしている。

Q: 医療通訳者として必要な資質は?

A: いい通訳者でも人との相性によって違うので、資質については断定できない。但し、自分の通訳を過信し、立て板に水のような通訳をしてしまうと、患者が遠慮して質問を挟めず、結果として本人が納得できる説明を十分に受けられない危険もある。要は「傾聴の姿勢」で、人の気持ちを聞き取れることを心掛けることが大事だ。たどたどしい通訳でも、そういう雰囲気を作ることができ、結果的に患者が診察の説明に納得してくれた方が、いい通訳者と言えるだろう。

Q: 日本語でも難しい医療知識に加え、ポルトガル語の医療単語も必要で、ハードルが高い職業に思えるが、どの様にして医療通訳者になっていくのか?

A: MIC かながわでは、毎年全言語の募集はしていないが、募集該当言語の応募者で書類選考を通った人には、4日間の研修を受けていただく。

前半は医療や社会保険の知識、病院のシステム、医療通訳者の心得など様々な座学だが、後半は実践形式のロールプレーでみっちり勉強してもらい、最終日の演習テストに合格した人が登録される。

登録後、最初の2回は先輩通訳者が付き添い、独り立ちできると判断されてから一人での通訳が始まる。

通訳の勉強は原則独学だが、年3回、医療知識、通訳スキル等の研修もあり、また、言語別に自主勉強会が定期的に設

けられているので、皆さん、少しずつスキルアップしながらスムーズに仕事をされていると思う。

Q: 医療通訳者の待遇は?

A: MIC かながわの医療通訳者は、あくまでもボランティアなので、報酬はなし。交通費程度の謝金として、1回2時間までで、3,300円を支払っている。

また、登録者全員に活動中の怪我や対人関連で起きた事故に対応するボランティア保険をかけている。加えて、協定病院との間では、誤訳によって起きた事故について病院スタッフに準じた扱いにしてもらえるようにしている。

Q: ブラジル人の通訳で習慣の違いから戸惑った事例は?

A: 例えば、日本の病院で出産する場合、自然分娩か帝王切開かは、妊婦の状態を見て医師が決めるが、ブラジルでは妊婦の意志が尊重される。最近では、ブラジル保健省の奨励もあり、自然分娩を希望する妊婦も増えてきている様だが、痛みを避ける傾向がある。

ブラジルでは深夜の病院の出産体制が整っていなかったり、治安が悪く、深夜にでかける危険性がある等の要因も加わり、帝王切開を望むことが多い。

そのため、日本でも、安易に帝王切開を望み、医師とぶつかり、双方の関係が悪くなるがあった。

Q: 課題や今後の展望は?

A: 全国的に外国人に対する医療通訳に関しては財源不足で、優秀な医療通訳者にそれに見合う報酬を払えないことが課題の一つだ。

一方、新型コロナの影響でOnlineでの遠隔通訳に応じる病院も少しずつ増えてきた。特に私たちがあまり関わっていない診療所に医療通訳サービスを広げるチャンスでもあり、今後はガイドラインを作って対面通訳の一部をonline活用することも視野に入れている。

レオン・カコフ賞を受賞した女優エレナ・イネス



布施直佐
（『ピンドラマ』誌編集長）

昨年10月に開催されたサンパウロ国際映画祭で、映画界へ多大な貢献をした人に贈られるレオン・カコフ賞を女優エレナ・イネスが受賞した。

エレナ・イネスとは

エレナ・イネスは1942年サルバドル生まれ。初出演作は当時の夫グラウベル・ローシャの処女作「パチオ（1959）」。60年代はシネマノーヴォの数々の作品に出演し、「シネマノーヴォのミューズ」と呼ばれた。中でも「現金輸送列車強奪（1962、ホベルト・ファリアス監督の社会派アクション劇）」の尻軽なブルジョワ女役、「神父と乙女（1966、ジョアキン・ペドロ・デ・アンドラーデ監督がカルロス・ドゥルモンド・デ・アンドラーデ原作の同名詩を翻案した抒情に満ちた傑作）」の清純さの奥底に淫蕩さを秘めた若い女役（ロベール・ブレッソンの作品にそのまま出ても全く違和感がない）が強く印象に残る。

そして1968年、その後公私にわたって長いパートナーとなるホジェリオ・スガンゼラ監督（1946-2004）の衝撃的なデビュー作「赤い光の強盗」に主人公をたぶらかすパンブ役で出演、それまでとは打って変わり、内面を意図的に欠落させた、表層的でハイテンションかつヒステリカルな演技を披露した。この作品は1964年の軍事クーデター以後、検閲を恐れ晦渋な表現に逃避していったシネマノーヴォに対抗し、「ゴミの美学」をひっさげ暴れ回った「シネママルジナル」の輝かしい嚆矢となった。エレナは続けてスガンゼラの4作品（「皆んなの女（1969）」「Sem essa, aranha（1970）」「コパカバーナ・モナムール（1970）」「泥のカーニバル（1970）」）に出演、夫と共に先鋭的な表現に磨きをかけていった。「皆んなの女」でエレナが演じたニンフォマニア役にはまだかろうじて統一的な人格が残っていたが、「Sem essa, aranha」「コパカバーナ・モナムール」では「一本の映画の中で同じ一人の人間を演じる」という前提が最初から放棄され、エレナは自分に憑依した色々な人格が叫び、ののしり、つばを吐き、痙攣し、歌い踊るのを肉体を通して表現しているかのようだ。

「コパカバーナ・モナムール」

「コパカバーナ・モナムール」の主な登場人物は、エレナ演じる娼婦ソニア・シルク、その兄ヴィジマール、ヴィジマールが家政夫として働く家の主人ドートル・グリーンロ、正体不明のチンピラの4人。全編リオのファヴェーラとコパカバーナのビーチ近辺で撮影され、ソニアが娼婦をやるかたわ

ら国営ラジオの歌謡コンテストで賞を取るのを夢見ていること、ヴィジマールが雇い主に恋い焦がれ肉体関係を持っている、といった設定はあるにはあるがあらすじと言えるものはほとんどない。驚くべきは、この作品が制作された1970年当時は芸術表現に対する軍事政権の抑圧がかなり熾烈であったにも関わらず、また、作中でブラジル社会全体に対する絶望的な批判が繰り返し提示されているにも関わらず、作品全体にみなぎっている圧倒的な開放感であろう。この開放感をもたらしているものは第一に、「赤い光の強盗」以来スガンゼラが得意としてきた音のモンターージュである。地に響き渡るかのようなカンドンプレの音楽、愛の喜びと苦しみを切々と歌うサンバ、そしてジルベルト・ジルが映画用に作曲した軽妙なボサノヴァ（「ミスター・スガンゼラ」という人を持った曲！）が次から次に断片的に流れ、脈絡なく繋がれた映像とシンクロして絶妙のグルーブ感を醸し出している。ラップのように節をつけて語られるナレーション、何度か繰り返し現れる、唐突に叫びだし画面奥に走り去ってゆくヴィジマール、白いシャツを頭からかぶってクルクル回りながらソニアの脇を駆け抜ける少年のイメージも作品の運動感を加速するのに貢献している。撮影当時スガンゼラは弱冠24歳、作品が若々しい生命力に満ち溢れているのも当然だろう。エレナは髪を金髪に染め、下着丸出しの真っ赤なワンピースを身につけ、何かに取り憑かれたようにファヴェーラや街中を落ち着きなく徘徊するだけで観る者に強烈な印象を刻みつけた。この作品は当時検閲を通らず一般公開はされなかったが、2015年に修復され初めて日の目を見、スガンゼラ再評価に大きな役割を果たした。

監督エレナ・イネス

その後エレナは1973年から2002年まで何度かの活動休止期間をはさみ、スガンゼラの遺作「混沌の徴（2003）」で本格的に活動を再開し、以降女優のかたわら監督・プロデュース業も始め、80歳になる現在もその創作活動は一向に衰えを見せない。娘のディン・スガンゼラ（1977-）も早くから女優として活躍、2020年には日本・ブラジルを舞台とした「大洋の女」で監督デビューを果たし（主役も兼任）、両親ゆずりの実験精神を披露している。



▲「コパカバーナ・モナムール」のエレナ・イネス

三菱商事のブラジル事業



篠崎幸男
（三菱商事株式会社 中南米地域代表
伯国三菱商事会社社長）

ブラジルビジネスの先駆け

サンパウロ市を北西に100kmほど行ったカンピーナス市にある東山農場は、三菱の創業者である岩崎弥太郎氏の長男久弥氏が1927年に創設した農場で、現在もコーヒーや野菜などを栽培しており、日系移民の戦前から戦後までの苦難の日々を描いたドラマの舞台になった。この東山農場の商事部門と三菱商事との折半出資により伯国三菱商事は1955年に発足した。

三菱商事の最初の対ブラジルビジネスはタイ産錫の三国間貿易であったが、早くからブラジルの農業にも注目し、日本のメーカーと共に農耕機・エンジン製造販売事業を1959年に立ち上げた。その後、ウジミナス製鉄所向け設備を受注（1960年）、リオ・ドセ鉄鉱石輸出の15年間の長期契約締結（1962年）を皮切りに、フェロシリコン、コーヒー、ココア、綿花、合成皮革、木材、カオリンなどの対日輸出、通信機器、鉄鋼製品、船用機械のブラジル向け輸出などを幅広く手掛けるようになっていった。

ブラジルのポテンシャルと三菱商事の取り組み

こうした長年に亘るビジネスを通じて、多くのブラジル企業と信頼関係や人的ネットワークを築くに至っている。現在の当社はサンパウロとリオデジャネイロの2拠点体制で、大型インフラ事業から、エネルギー、金属資源、総合素材、機械、化学品、穀物や食料などの生活産業まで、ブラジルが強みをもつ分野や今後の成長が期待される様々な分野でビジネスを展開し、夫々の事業領域において、三菱商事のバリューチェーンを通して顧客のニーズを発掘、グローバルネットワークと複合機能を駆使した長期的な事業機会の創出に努めている。例えば、現在、ブラジル沖ではベトロプラスのビジネスポートフォリオの最重要部分を占める超深海油田開発が積極的に進められているが、当社は世界屈指の実績を誇るパートナー企業と共に、その中核設備である洋上原油生産設備（FPSO）



Agrex do Brasil の施設（写真：AGREX）

傭船事業に長年参画している。

穀物分野では、ブラジルのゴイアス州に本社を置くアグレックス・ド・ブラジル社が、世界有数の穀物生産国であるブラジルの穀物調達拠点として、大豆やトウモロコシなどの生産・収穫から出荷・販売、輸送、農業資材（種子、肥料、農薬など）の販売事業までを一貫して担っている。

鉄鋼分野ではメタルワングループが自動車産業への加工・物流拠点を通じての鋼材・部品供給、オイル&ガス、インフラ、土木建築産業への鋼材・部品供給等、鉄鋼総合商社として、ブラジル経済を幅広く下支えしている。

今後の取り組み

当社は、温室効果ガス排出量の新たな削減目標と、エネルギー・トランスフォーメーション関連投資に関する指針である「カーボンニュートラル社会へのロードマップ」を昨年10月に発表した。未来を見据えた重要課題への取り組みとして、EX（エネルギー・トランスフォーメーション）・DX（デジタルトランスフォーメーション）の一体推進を掲げているのだが、このアジェンダにおいてもブラジルには大いにビジネスチャンスがあると感じている。

EX分野では、ブラジルは再生エネルギー利用の先進国でもある。当社は長年ブラジルのバイオエタノールの輸出によりサプライヤーの信頼を積み上げてきた。この関係を礎に、ブラジルの次世代エネルギーの資源や技術がもたらすサステイナブル社会の実現に向けパートナーと鋭意協議中である。

また、DX分野では、当社はNTTと共に、位置情報サービスの世界的なリーディング企業であるHERE Technologiesに出資しており、HEREのソリューションを当地、更には中南米全域の有力パートナーに提供することを通じて顧客の物流やリソース配分の最適化支援に取り組んでいる。この取り組みは、COVID19禍で在宅勤務を余儀なくされた時期に開始しており、ブラジル・欧州・北米・日本を結ぶオンライン会議において連日ボーダーレスな議論を重ねた結果、新規ビジネスの創出に繋がった経緯を持つ。まさに、DXビジネスの創出活動を通じて新しい仕事の進め方を自ら実感することになった点においても感慨深いものがある。

冒頭にご紹介した通り、当社の活動は東山農場にルーツを持つ。今、当社は、熱帯林とブラジルの農業の両立を目指して、パラ州ベレンで「アグロフォレストリー」の人材育成活動を支援している。気候変動対策につながるアマゾンの自然保護と地域住民の生活向上に微力ながら貢献できれば幸いである。独立200周年、大統領選挙、国連非常任理事国就任等、歴史的に重要な局面を迎えるブラジルから目が離せない。

ブラジルにおける農地取得規制



柏 健吾
(TMI 総合法律事務所
日本法弁護士
現在ブラジルで勤務)

ブラジルにおいては、外国企業もブラジル企業と同じ扱いを受けることが憲法により保証されている。そのため、外国企業に対する差別的な取扱いとは原則としてないが、例外的に、国家の安全保障等の観点からいくつかの分野では外国企業に対する規制が存在する。その一つが農地の取得である。農業大国であるブラジルにおいて農地取得規制は非常に重要なテーマであり、最近も法改正の動きがある。そこで、本稿では、農地取得規制の概要を解説する。

1. 農地取得規制の歴史

ブラジル国内の土地は、用途又は所在地によって、都市不動産 (Imóvel Urbano) と農地 (Imóvel Rural) の2つに分けられている。農地取得規制は、簡単に言えば、外国人 (個人・法人) が農地を取得する際に一定の制限を受けるというものであるが、「外国人」に外国人に支配されているブラジル企業 (以下「準外国法人」という) が含まれるか長年議論がある。農地取得規制を規定している 1971 年法 5709 号の解釈について、国家総弁護庁 (Advocacia-Geral da União) は、準外国法人は本規制の対象とならないとする見解を 1997 年に発表した。その後その見解を変更し、2010 年に準外国法人も本規制の対象となるとする見解を発表した。そのため、現在は準外国法人も規制の対象となっている。なお、現在、準外国法人を本規制の対象外とする法案が国会で審議されている。

2. 農地取得規制の具体的な内容

農地取得規制は買主が外国人 (個人) である場合と外国法人である場合で以下のとおり異なる。なお、ブラジルに居住権のない外国人及びブラジルで事業を行う許可を有していない外国法人は農地を取得できない。

外国人	・3MEI を超えない場合は自由に取得可能 ・3MEI を超えて 50MEI 以下の場合は INCRA (国家入植農地改革院) の承認が必要 ・50MEI を超える場合には国会の承認が必要
外国法人	・いずれの場合も INCRA の承認が必要 ・100MEI を超える場合には国会の承認が必要となる

※ MEI : INCRA が定める面積の単位 (地域によって異なる)

また、上記とは別に、一自治体 (Município) における外国人が取得できる農地の総面積に制限がある。具体的には、一自治体あたり外国人が保有する農地は総面積の 25% を超えてはならず、かつ、同一国籍の外国人が保有する農地は総面積の 10% を超えてはならない。

3. 準外国法人の要件

農地取得規制が適用される準外国法人が否かは、形式的に株式の過半数を外国人が保有するか否かではなく、実質的に外国人が会社を支配しているか否かで判断される。たとえば、株主間契約などに基づき外国人株主が役員の過半数を選任できる権限を有す

るような場合には準外国法人と判断される可能性が高い。

4. 適用対象となる行為

農地取得規制は、農地の取得だけではなく賃借の場合にも適用される。また、農地を保有するブラジル法人の買収や合併などの場合にも適用される。ただし、地上権、用益権、地役権などの所有権以外の物権の設定は規制の対象外と解されている。

5. 国境地帯の農地

国境地帯 (国境沿い幅 150 キロメートルまでの地帯) の農地については、上述の規制のほか、国家防衛局 (Conselho de Defesa Nacional) の承認が別途必要となる。

6. 譲渡担保権を実行した結果の取得

2020 年法 13986 号による法改正により、農地取得規制 (国境地帯の農地含む) が緩和され、譲渡担保などの担保権の実行として債権者が農地を取得した場合には、農地取得規制が適用されないことになった。

7. 農地の取得方法

日本企業にとって関心があるのは、農地を実際に取得又は利用できるか否かであろう。以下いくつかの方法を検証する。

(1) INCRA による承認

上述のとおり、外国法人が農地を取得するためには INCRA による承認が必要となる。ただし、INCRA による承認には数年単位の期間がかかることが一般的で、かつ、最終的に承認されるか否かを事前に把握することはできない。そのため、INCRA による承認を得るのは現実的な方法ではない。

(2) 農地から都市不動産への変更

都市不動産であれば外国人による取得に制限はないため、農地を都市不動産へ変更することが考えられる。農地から都市不動産への変更は各自治体が審査し決定する。自治体は税法 32 条に規定する項目 (道路の縁石、雨水の流路、水道、污水設備など) に改善がみられるか否かで都市不動産への変更を許可している。この手続にも相当期間かかり、また、変更が許可されるか否かを事前に確認することはできない。

(3) 所有権以外の物権の設定

上述のとおり、地上権などの物権の設定は農地取得規制の対象外と解されているため、地上権などの物権を設定し農地を利用することが考えられる。

(4) ブラジル法人が会社を支配する形にする

準外国法人が否かは外国株主が会社を支配しているか否かで判断されるため、ブラジル人 (個人・法人) に過半数の株式を保有させて農地を取得することも考えられる。その場合、株式を過半数保有するブラジル人との間で別途株主間契約などを締結することが考えられるが、契約の内容によっては、農地取得規制の脱法的な行為と INCRA から判断される可能性があるため留意が必要である。

2022年度における直近の税制動向



清水正男ヴァウテル
(KPMG ブラジル
タックスパートナー)



三上智大
(KPMG ブラジル
ジャパニーズ
マネージャー)



天野義仁
(KPMG ブラジル
ジャパニーズ
責任者)

ブラジルでの新年の幕開けは、納税者にとっていくつかの変化が生じる事を意味する。特に、(法律発効に対する) 年度猶予の原則により、新税又は増税を規定した法律が制定された年度の内に新税又は増税を徴収することが認められていない点は重要と言える。昨年度は、2022 年度に向けた強力な税制改革に大きな期待が寄せられており、配当課税、消費税の統合、Digital Tax の規制など、いくつかの議論が行われた。しかしながら、2021 年末に発表された 2022 年度の税制改正では、ポイントを絞って検討された結果となった。

そこで、2022 年度以降に施行される又は施行される可能性のある主な税制を紹介する。

最終消費者向けの州間取引(e-Commerce)における差額徴収

補完法第 87/1996 号を改正する補完法第 190/2022 号 (補完法第 32/2021 号から派生) が制定及び公布され、最終消費者を対象とした州間の取引やサービスにおいて発生する ICMS 税の差額 (DIFAL) の徴収に関する規定を変更している。

この新しい規定は、以下に詳述するように、いくつかの論点を生み出している。

・**効力の発生** : (法律発効に対する) 90 日間の猶予期間の原則に照らし合わせると、大統領による承認が行われたのは 2022 年 1 月であるため、新補完法は 2022 年 4 月に発効することが可能である。一方、年度猶予の原則への抵触が指摘されている。そのため、新規定を 2023 年度から適用することが現在議論されている。

・**各州の動向** : サンパウロ州やバイア州などの一部の州は、補完法第 190/2022 号に含まれる要件を反映した ICMS 法を改正している。また、リオグランデ・ド・ノルテ州やセアラ州のように、今後変更を行う声明を出すに留まったところもある。上記のように、一部の州は既にこの問題について意見を述べているが、DIFAL の賦課は 2022 年に行われるべきだという点では、各州の間で意見が一致している模様である。

化学及び石油化学産業向け資材に対する PIS/COFINS 税の優遇措置の廃止

暫定措置 No.1095/2021 は、ナフサ、エタン、ブタジエンなど、石油化学・化学産業で使用されるいくつかの資材の輸入及び販売収入に対する PIS/COFINS 税の負担軽減を廃止した。もともと REIQ (Regime Especial das Industrias Químicas) と呼ばれるこの優遇措置は、段階的に廃止され、2025 年に完全に終了する予定であった。今回の措置により、2022 年 4 月以降、同制度の恩恵は失効し、一般的なルールに基づいて課税されることになる。ただし、この暫定措置が失効しないためには 6 月初旬までに国会での審議を通じて法

律として成立する必要がある。

ブラジル化学工業協会やその他の団体は、連邦政府の新たな決定に異議を唱えており、当該優遇措置の取り消しに関し今後何度か議論が行われることが予想される。当該負担軽減の廃止により、製造業の原材料コストの上昇が予想されている。

新しいIPI 税率表(TIPI)

政令第 10.923/2021 号により、新しい IPI 税率表 (TIPI) が承認された。また、この政令は、現行の TIPI を承認した政令第 8.950/2017 号を含む、当該租税を扱ったいくつかの規定を取り消した。TIPI は、2022 年 4 月 1 日より適用される。

総収入に対する社会保障負担金(CPRB)の延長

2011 年の法令第 12.546 号で制定され、2013 年規範指令 RFB 第 1.436 号で規定されている総収入に対する社会保障負担金 (CPRB) は、通常の社会負担金 (INSS) への代替的な税金であり、給与総額の計算ベースで 20% に相当する社会保障負担金に代わるオプションである。毎年 1 月に代替措置を選択した場合、対象企業は、法律で定められた金額 (例: 返品、無条件に与えられた割引、IPI、ICMS-ST など) を除いた総売上額に対して、1% ~ 4.5% の税率を支払う。

CPRB に関連する法律は修正・更新を繰り返しており、直近の法令では、2021 年末まで 17 分野 (靴生産、コールセンター、通信、衣類・アパレル、土木建築、建設会社、インフラ工事、皮革生産、車両・車体製造、機械・設備、食肉、繊維、IT、通信技術、電子部品、地下鉄での旅客輸送、陸路での公共交通機関又は貨物輸送) の企業に当該制度の適用を保証している。

このような状況の中、適用可能期間の終了が近づいた段階で、財務及び税務委員会は法案 No.2.541/2021 を承認した。この法案は、対象分野による当該制度の適用を 2023 年末まで 2 年間延長している。

上記の税制改正が行われる一方、期待されていた目玉議論である消費税 (VAT) の統合の議論については先延ばしされており、また当年度には大統領選を控えているため、今後の税制改正に関する法案の承認可能性については、現状では不透明な状況である。

ただし、年明け 2022 年 1 月には、ブラジルの OECD への加盟協議が開始されており、経済省は 1 月 28 日、公式サイトで金融取引に対して課税する金融取引税 (IOF) を 2029 年までに段階的にゼロにする方針を打ち出すなど、ビジネス環境の改善の動向も見える。企業に恩恵のある税制改革を始め、今後もブラジルにおけるビジネス環境の改善を期待したいところである。

ブラジル北東部音楽 フォホーの歌の世界



服部 章子

昨今、街でブラジル音楽を聴かない日はないというほど、おしゃれなカフェ、雑貨屋、ブティック、どこにいてもBGMにボサノヴァが聞こえるようになった。歌詞の意味は分からなくても、ささやくような柔かいポルトガル語の響きが耳に心地よく、広く受け入れられているのだろうか。以前から日本の音楽マーケットは、歌詞が日本語に訳されていなくても、世界中の歌が受け入れられる特異な市場と言われてきた。旋律やリズムが気に入ればOKの懐の深さは、逆に、外国の曲の歌詞にはあまり注意を向けていないことの現れとも言える。一方、ブラジル人にとって歌とは、詩の朗読に旋律がくっついたという認識のようである。堂々と調子づけずれの歌を披露する人たちも、歌詞には結構うるさい。ブラジルにもアメリカなど外国の曲はたくさん入ってきているが、世代を問わず歌い継がれているのはポルトガル語で歌われる大衆歌謡だ。その中でも日本人の我々が共感をもてる世界を歌ったフォホーを紹介したい。

ブラジル北東部の内陸部には「セルタオン (Sertão)」と呼ばれる乾燥地帯が広がる。この地方の出身であるルイス・ゴンザーガによって1940年代半ば頃からラジオで大ヒットしたフォホーというジャンルの音楽がある。このフォホーは、1950年代にイクタケイコという日本人歌手によって数曲が日本語カバーされている。歌詞は直訳で日本語ながら意味がよくわからないが、当時ラテン音楽ブームが起きていた日本でも注目される程の売れ行きだったのだろう。乾季には雨が降らない日が続く、農業ができないこの地方からは、当時多くの農民が出稼ぎ労働者としてリオデジャネイロやサンパウロの大都会に働きに出ていた。家族全員で農地を捨て都会に移る者、出稼ぎを終えて無事に帰る者がいる一方で、家族を故郷に残したまま都会に残ったり、行方不明になってしまう者も少なくはなかった。トラックの荷台にかけた横板に座って都会へ出稼ぎに行く人々の姿は、止り木のオウムようだと言われた。この北東部セルタオンについては、著名な版画家ボルジェス一家の作品のテーマにもよく使われる。ルイスの曲を代表とする伝統的なフォホーの歌は常に「北東部の民」の心情に寄り添っている。これから出稼ぎに向かう不安、

日照りが続き水不足で死んでしまった家畜、帰らない家族や恋人を偲ぶ歌、慣れない都会生活の辛さ、雨が降った喜びなど。ラジオから流れるルイスの歌は、厳しい自然に翻弄され、遠く故郷を離れて孤独や差別に耐えながらもひた向きに生き抜く北東部の出身者に限らず、多くの人々の心を掴んだ。フォホーの歌の世界観は、昭和の日本歌謡や東北民謡に通ずる。東北地方から雪の為に農業を諦め東京へ出稼ぎに行く人々とセルタオンから都会へ出稼ぎに行く人々。セルタオンの「雨が降ったら」と日本の「雪が解けたら」は、その後に「故郷に帰って畑を耕そう」と続く同じ意味の言葉なのだ。

フォホーは一時大流行しながらも、都市部では長い間出稼ぎの田舎者の音楽と扱われてきた。私自身、90年代半ばにリオの楽器屋でフォホーの楽譜を探していたら、「このリオで誰もあんな田舎者の音楽なんて聞かないわよ」と店員に毒舌を吐かれた経験がある。ところがフォホーは、90年代終わり頃に若者のフォホー・トリオと当時の大学生らによってダンス音楽として劇的な復活を果たし、ブラジル全国を制覇する一大ブームを築く。サンバに比べて比較的習得しやすいフォホーのペアダンスは、北東部に限らずブラジル中で流行し、今では広く世界中で親しまれている。新しいアーティストも続々登場し、ルイス・ゴンザーガの築いたフォホーの世界は、更に現代風に進化している。コロナ禍になる前は特に欧州で大流行し、毎週のように各国でフォホーダンスイベントが開催されていた。日本にも在日ブラジル人を中心にフォホーダンスのグループがいくつかあり、海外から講師を招いてダンスイベントが開催されていた。サンバやボサノヴァに比べてまだ多くはないが、アコーディオン、トライアングル、ザンバ (太太鼓) で形成されるフォホー・トリオは日本でもいくつかのバンドが演奏活動をしている。特に6月のフェスタ・ジュニーナでは、イベントに花を添えるのに北東部の音楽は欠かせない。今年の6月には演奏の機会が再び訪れることを願ってやまない。ダンスの伴奏音楽としてだけではなく、フォホーの持つ歌の世界をこれからも大切に日本に伝えていきたいと思う。



▲フォホー・トリオと踊る人々



▲ルイス・ゴンザーガ



小林綾子

Casa Caiada と Arraiolos

赴任先ポルトアレグレの新居用の家具を調達するために立ち寄った店の一角にうず高く積まれた絨毯の中にその手刺しの絨毯はあった。20色以上の毛糸を刺し込んだ緻密な極彩色の幾何学と花文様の組み合わせは刺し手の技巧の高さ、温もりと膨大な労苦を感じさせるもので、一目で魅了された私は即座に購入した。価格はかなり高額で毛織のベルシャ絨毯と同額程度であったと記憶している。クロスステッチ刺繍のバリエーションで刺していく技法はCasa Caiadaという名前で、1966年にMaria Digna及びEdith Pessoa de Queiroz両氏がブラジル北東部の伝統的手芸技法Renda Renascençaのレース編み職人の卓越した技術を用いて18世紀、19世紀のポルトガルタイルのモチーフを手刺しの絨毯に表現したものが最初であったと知った。残念ながら、ポルトアレグレ滞在中はCasa Caiadaのアトリエ、専門店には出会えず、その技法を学べる機会はなかった。

数年後、転居先のサンパウロで、Arraiolosという別のクロスステッチ刺繍のバリエーションで手刺しする作品のアトリエや手芸材料店、絨毯専門雑誌に複数出会うことができ、Arraiolos絨毯をブラジル人講師から学ぶ機会も得た。Arraiolosステッチのパターンはシンプルで自分好みの様々な文様を刺せる手軽さから多くのブラジル人愛好者がいるとのことだった。講師が

Arraiolos絨毯の発祥の地であるポルトガルのArraioloを訪れた際のアトリエ作品の写真集を見せてくれた。そこには伝統的アラベスク文様、幾何学文様、身近な家畜モチーフ、植物モチーフなどイスラム文化の影響を受けた多岐に亘るモチーフが描かれており、是非Arraioloに行ってみたいとの思いを強くした。それから10年余り経って念願がかない、Alentejo地域の中心都市で、16世紀末の天正遣欧少年使節の立ち寄り等を通じ日本とも関係の深いÉvoraから車で半時間の、人口7300人強の小さな村を訪問した。自分が勝手に想像していたのとは違い、中心街のアトリエは数店のみ。作品は日常使いの絨毯と言うよりは、高額な美術工芸品の扱いで神々しく壁に飾られており、部屋の奥で老婦人が黙々と手刺しするなどという風景は見えなかった。こじんまりとした明るいアトリエで子どもをあやしながら絨毯を制作していた30代後半の女性に彼女の作品を見せてもらいながら話を聞いたところ、ここでも中国製の安価な手刺し絨毯が市場に溢れ、本場Arraiolos絨毯の担い手は激減しているとの事であった。17世紀スペインの迫害から逃れたスラブ系イスラム教徒がこの地に定住し、絨毯制作を伝えたという歴史があるこの伝統工芸の灯が消えることなく続くことを祈願して村を後にした。

ジャーナリストの旅路

不正引き出しとカード偽造

「米国で現金自動受払機(ATM)から現金が引き出されています」オペレーターの男性の声に、耳を疑った。2021年10月中旬、私はキャッシュカードのスキミング被害に遭った。米国への最後の入国は15年前。7万円あまりが引き出された。

ATMで邦銀のキャッシュカードから現金が引き出せないのに気づいたのは、10月1付でサンパウロに赴任して3週間後だった。前任者から「ブラジルは大抵の店舗や露天でカード決済ができる」と言われたが、現金はある程度持っていようと思った矢先の出来事。取引記録を確認すると、最後の引き出しは、9月末の入国時に立ち寄ったグアルリョ空港内のATMだった。ここでカード情報を盗まれた可能性がある。

ここまでは、在サンパウロ総領事館の海外安全対策情報にある典型的な邦人被害だろう。しかし、別のキャッシュカードの状況も調べたところ、不正利用の形跡が見つかった。このカードもグアルリョ空港内のATMで使っていたため、同じ日に2枚のカード情報が同時に盗まれた可能性が出てきた。

当時、私はまだブラジルの現地銀行口座を開設していなかった。このため、現金を引き出せるのは、持参した残り

2枚のクレジットカードのうち、キャッシングサービスが利用できる1枚のみ。不運は続いた。10月末、飲食店でこのカードで決済しようとしたところ、利用ができなくなっていた。カード会社に問い合わせると、今度は偽造された疑いが浮上。取引は停止された。

赴任1カ月で使えるカードが1枚まで減るとは、想定外の展開だ。手持ちの現金は2000リアル(約4万2700円)と100ドル(約1万1500円)。さらに各邦銀、カード会社によると、新型コロナウイルスの流行で日本からブラジルへの国際スピード郵便(EMS)が停止しており、再発行するカードは日本の登録住所にしか送れないという。私は遅れてブラジルに来る妻の元に新たなカードが届くよう手続きし、約1カ月半をクレジットカード1枚で過ごす羽目になった。

残り1枚は不正被害を免れ、12月中旬に妻と新しいカードがブラジルに到着。心の底から安堵したが、最近、再発行したクレジットカードがまた不正利用された。赴任4カ月で計4枚の被害。なかなかのペースだ。助手に話すと、「私も先日、クレジットカードが不正利用されました」。カード情報が盗まれた手口は今も分からない。皆様、ご注意下さい。

中村聡也

(毎日新聞 サンパウロ支局長)

ブラジル発多国籍企業の来し方行く末 松野哲朗 著『ブラジル企業 多国籍化の構図』 岸和田仁（『ブラジル特報』編集人）を読む

パイオニア的なブラジル発多国籍企業研究

昨年12月にブラジル産業界の国際化をブラジル資本企業3社の事例研究を通じて分析した論考が刊行された。『ブラジル企業 多国籍化の構図』（松野哲朗著、日本評論社）である。この労作はいろいろな意味においてパイオニア的なので、今回はこの著を読んでみよう。

まず、外資の多国籍企業によるブラジル進出事例についての研究は経済学者や経営学者の怡好のテーマなので関連論文・著作は数多く発表されているが、ブラジル資本の企業が国際化していった事例の研究などは日本語文献としてはほとんど皆無であったからだ。外資（日系）企業研究のわかりやすい事例では、『トヨタ生産方式の海外移転手法の解析：ブラジル自動車産業』（白桃書房、2019年）などが典型的であるが、日本のような先進国の“進んだ”技術が、“遅れた”ブラジルに“正しく”移転されたか、を分析して修論や博論に仕立てる研究者たちである。彼らの視点では、ブラジルはあくまでも「進出される」側であって、「おしえてもらう」側として分析されるにすぎない。

20世紀半ばまでは、コーヒーに代表されるモノカルチャー農業国であったブラジルが工業化を推進するようになるのは1950年代以降であり、その主要産業政策は、輸入代替産業育成と保護政策であった。1970年代の「ブラジルの奇跡」といわれた経済成長期を経て、1980年代の「失われた10年」という混乱期をはさんで、ブラジル経済が世界に門戸を開いたのは1990年代に過ぎない。というブラジル経済近代化の歴史的推移からすれば、資本も技術も先進国からブラジルに導入される、という一方通行の時代が続いたのは当然であったが、双方向のアプローチやブラジル資本の多国籍化が本格化するのには21世紀に入ってからに過ぎない。

従って、ブラジル資本企業の多国籍化についての日本語による本格的論考がやっと登場したのは時宜にかなっており、本書はこの意味でもパイオニア的である。

また著者の経歴もブラジル研究者としては異例といえるだろう。なにしろ大手新聞社でマニラ支局長、静岡支局長、経済解説部デスクなどの要職を占めていた著者が、その“安定職場”を早期退職して経済学研究に転進したのだが、そ

の研究対象として選択したのが勝手知ったる東南アジア経済でなくブラジル経済であったからだ。その渾身の博士論文に加筆して刊行されたのが本書である。

経済学者ブレッセル・ペレイラ

本書は、事例研究に入る前（序章、第1章、第2章）に、分析の理論的枠組をきちんと押さえ、次に、産業政策史、特にPT（労働者党）政権下の産業政策を見極めている。この点が本書の特徴でもあるが、この理論編でキーパーソンとして論じられているのが、「ブラジル経済学界のレジェンド」ブレッセル・ペレイラ教授の新開発主義といわれる経済理論である。本書の付録に同教授とのインタビューが収録されており、筆者には、実は、この部分が一番“面白かった”ところだ。というのも、同教授の理論もさることながら、学者と経営コンサルタントの二足の草鞋を履き続けたマルチ才人の生き方が実に興味深いからだ。

経済理論はアメリカ仕込みだが、社会科学の従属論的な視点も冷静に吸収する柔軟さを有する学者で、大学教授としてアカデミックな活動が続ける一方、軍政時代の1969年、公職から追放されたマルクス派社会学者F・H・カルドーソと共に民間シンクタンクCEBRAP（ブラジル分析企画センター）の創設にも関与したかと思えば、誕生したばかりの量販店パウン・デ・アスーカルの経営審議会をリードし、さらには財務大臣や行政改革庁長官なども歴任している。1995年、大統領となったカルドーゾが志向したのは、経済安定・成長と社会的公正を同時に実現する国家であり、これを理論化し「社会自由主義国家」と名付けたのも彼であった。現代ブラジル経済の理論と実践を自ら体現したエコノミストといえるだろう。

事例研究の対象3社

ブラジル資本企業のなかで2000年代に先進国を対象に多国籍化した三社として、食肉のJBS、航空機のエンブラエル、資源開発のヴァーレ、が選出され、それぞれの事例研究は詳細極まりないので、その内容については、本書を読んでいただくしかない。なにしろ、ペレイラ教授の分析視角を援用しながら、優位性の活用と劣位性の克服の観点から精緻な分析を展開しているからだ。

ただ、筆者としては、BNDES（経済社会開発銀行）からの特別資金援助も流用して巨額の賄賂をバラまいて企業規模の急拡大、多国籍化を進めた“ダーティーな政商型企业”JBSについては、エンブラエルやヴァーレとは別の視点（特に企業統治・企業倫理の視点）から徹底的に議論されるべきだと考えている。

● 2022 年選挙

陸軍は、本年の選挙戦がエスカレートし、ルーラ派とボルソナロ派による暴力沙汰に発展する可能性を危惧しており、また、可能性は低いとしながらも、昨年1月6日の米国議会乱入のような事案が伯において発生する可能性は否定できないとして、本年第4四半期に予定している演習を前倒しし、全ての演習を9月までに完了することで、不測の事態に備えることにしている。ジュングマン元国防治安相（テメル政権）は「最悪のシナリオは、現職大統領（ボルソナロ）が再選されず、不正選挙を主張することにより、右派の活動家、警察官、トラック運転手等、過激な支持者達が実力行使に出て、野党のデモ隊と衝突することである。その場合、州政府は、軍の出動（GLO 一法と秩序維持活動）を要請するが、ボルソナロ大統領がこれを拒否することで、パニックが拡大する恐れがある。その場合、州政府が連邦最高裁判所（STF）に提訴することになり、事態は混乱を極めるであろう」と見ている。（1月7日付フォーリャ・デ・サンパウロ）

● 世論調査

EXAME/Ideia 社が1月9日から13日にかけて1500人を対象に実施した電話調査によると、現時点において大

統領選が行われた場合、各候補の得票率は以下の通り。

・**第1回投票**：ルーラ元大統領（PT）41%（昨年12月比4ポイント増）、ボルソナロ大統領（PL）24%（3ポイント減）、モロ元法務治安相（Podemos）11%、シロ・ゴメス元国家統合相（PDT）7%、ドリア・サンパウロ州知事（PSDB）4%、バシエコ上院議長（PSD）1%、白票/無効票 7%、分からない 4%。

・**決選投票**：ルーラ 49%対ボルソナロ 33%、ルーラ 47%対モロ 30%、ルーラ 47%対シロ・ゴメス 25%、ルーラ 49%対ドリア 26%、モロ 38%対ボルソナロ 32%、シロ・ゴメス 40%対ボルソナロ 34%、ボルソナロ 34%対ドリア 28%。（1月14日付ヴァロール・エコノミコ電子版）

● Selic 金利二けたへ

2月2日、ブラジル中央銀行の通貨政策委員会（Copom）は、現在のSelic金利（政策誘導金利）9.25%を1.50%引き上げ、10.75%に決定した。

2020年8月から2021年1月までは、Selic金利は過去最低の2.0%を続けていたが、インフレ圧力の上昇を軽減するためにも8回連続の金利引き上げを余儀なくされた。（2月2日付ヴァロール・エコノミコ電子版）

キャンパス・コラム

多様なヤシ類とアグロフォレストリーを研究して

牛丸武文
（ヴィソーザ連邦大学
大学院農学修士）

私は大学在学中にブラジル中央協会の学生会員になった。そして大学卒業後、2019年からヴィソーザ連邦大学(UFV)植物工学部で大学院課程を始めた。ブラジル人は気さくでフレンドリーな事は先刻承知であると思うが、一般的なブラジルのイメージよりも深く親密に、様々な分野の様々な目標、考えの友人達、又多くの教授方と文化的・精神的な交流を行える事は海外で生活をする学生の特権である。このような経験をする事が出来たのは幸運である。学校生活の特に研究では、私はジュッサーアフルーツ(Juçara)という一般的に知られているアサイーフルーツ(Açaí)よりも低量の水分、日光、温度で育つ椰子の木を研究し学術誌への発表を準備している。

さて、このコラムへ寄稿する機会をいただいたので、農業系の研究の紹介とブラジル農村部の発展と日本について考えてみたいと思う。私が所属していた果実栽培部門のREMAPEと言われる研究プロジェクトのブラジル原産のオイルパームを少々紹介させて頂く。マカウバ(Macaúba)と言われるその椰子は、ブラジルが世界有数の生産量を誇るアブラヤシ(Dendê)とは違い、ブラジル原産で国土

の約25%を占める、劣化し放置された牧草地でも生育し、再緑化の為に有能な役割を果たす椰子である。更に、Macaúbaはコーヒー、フェイジョン(Feijão)などの農作物と畜産のアグロフォレストリー栽培が可能であり、この椰子から取れるオイルは燃料や化粧品、食品の為に植物油の代替品として使用できる。まさに環境、社会、生産者に利益をもたらす植物である。これらの農業管理はブラジルの小農家や農村部の発展に大きな役割を果たす。

世界中で脱炭素、SDGs（持続可能な開発目標）が大流行して日本でも騒がれている。科学的事実がどうであれ、何となく逆らえない空気がある。環境保護もSDGsも、もちろんその言葉自体は良いことを言っているが実態はどうなのだろうか？ 現実には様々な思惑が錯綜しているだろう。

今回紹介させて頂いた、日本では殆ど知られていないプロジェクトを通じて本当の意味での日本とブラジルの文化的、経済的発展の為に日本が出来る事を考えていきたい。そして、共に考えられる学生会員が更に増えることを願っている。

新刊書 紹介



◆◆◆◆◆ 新刊書紹介 ◆◆◆◆◆

『乾いた人びと』
(グラシリアノ・ハーモス著、高橋都彦訳)
「ブラジル現代文学コレクション」の7冊目として刊行されたのが、今やブラジル文学の古典的名作（原作 1938 年）と評されるグラシリアノ・ハーモスの代表作である。社会派リアリズムを主な手法とするノルデスチ文学の中心作家であるが、旱魃にやられ生きのびるために乾燥地帯を徒歩で彷徨う牧童一家の苦悩の日々を克明に描写する心理小説は読者の心を揺さぶる。巨匠ネルソン・ペレイラ・ドス・サントスにより映画化された作品だ。
(水声社 2022 年 2 月 174 頁 2,000 円+税)

『ブラジル企業 多国籍化の構図』
(松野哲朗著)
ブラジル資本企業のなかで 2000 年代に先進国を対象に多国籍化した三社（食肉の JBS、航空機のエンブラエル、

資源開発のヴァーレ）の事例研究を通じてブラジル産業の変遷・国際化を分析した著作だ。多国籍企業誕生の歴史的背景、21 世紀に入ってからの労働者党政権による産業振興策・経済運営についての経済学者 B・ペレイラの分析視角を深読みしたうえで、優位性の活用と劣位性の克服の観点から精緻な分析を展開している。労作である。
(日本評論社 2021 年 12 月 242 頁 税込 6,050 円)

『日本の国際協力 中南米編』
(松下列、田巻松雄他編著)
環境保全と貧困克服を目指して、というサブタイトルが付されているが、中南米諸国への日本の ODA の実態・課題を各地域（中米、カリブ、アンデス、南米南部）毎に具体的に取り上げ論述している。国際協力とは経済関連ばかりか医療支援や文化交流も含まれるはずだが、本書が取り上げているのは経済関連ばかりで、この点は読者によっては不満が残るかもしれない。ブラジルの章（執筆：舩方周一郎東外大講師）はバランスがとれている。
(ミネルヴァ書房 2021 年 12 月 266 頁 4,050 円+税)

『文化史とは何か』増補改訂版
(P・パーク著、長谷川貴彦訳)

文化史研究の第一人者による歴史方法論増補版の重版だ。エピローグの最終行は、「ブラジルの歴史家ジルベルト・フレイレが 60 年前に提唱しているように、国民主義者（ナショナリスト）のやり方で研究された政治史や軍事史はしばしば諸国民を分断してきたが、「社会史や文化史の研究」は諸国民をひとつにして「それらのあいだの理解とコミュニケーションを切り開いてゆく」し、そうなる可能性をもっているのである」という至言で締めくくっている。
(法政大学出版局 2021 年 11 月 248 頁 2,900 円+税)

『変容する在日ブラジル人の家族構成と移動形態』(ヤマグチ・アナ・エリーザ著)
ブラジル人研究者（日系三世）が 1998 年から 2000 年にかけて滋賀県と愛知県に住む在日ブラジル人の生活実態調査を行い、その家族形態の変容をフォローした。彼らの家族の統合、解体、再統合が繰り返されるプロセスを、分散型（滋賀県など）と集団地（愛知県）それぞれの多数事例の密着調査を通じて明らかにした。その社会学博士論文に加筆したものが本書だが、著者は研究だけでなく社会活動にもコミットしていく。画期的な論考である。
(世織書房 2021 年 11 月 376 頁 4,300 円+税)

!!「ブラジルあれこれ」!!

Café Lamas (2)

Café Lamas については、昨年 11 月 30 日に行われた関口前マナウス総領事の講演の中でも現在営業中のブラジルで一番古いレストランである旨の紹介とともに Filé Mignon がおいしかったとの感想が添えられた。

当時（1976 年）いつも楽しんで食っていたフェイジョアーダは、今はやりのブッフェ式ではなく、一つの容器に盛られてくる伝統的なものだったのを覚えている。ブラジルで初めて食べたフェイジョアーダがこの店のものであったことはラッキーであった。フェイジョアーダは、このように一つの土鍋に盛られてくるのがよいというブラジル人は多い。肉の様々な部位が鍋の中でぐつぐつと煮えてあの独特の出汁が出ていなければだめだということだ。

現在のメニューを見ると牛肉、豚肉、鶏肉から海産物まで幅広い。中でもステーキ（Filé）は、この店の常連客であったというヴァルガス時代の外務大臣 Oswaldo Aranha にちなんだ Filé a Oswaldo Aranha（フィレステーキの上にカラッと揚げたガーリックチップ、付け合わせにご飯とポテトチップといういかにもブラジルのなもの）をはじめ多くのバリエーションが用意されている。ステーキについては「リオで一番（Melhor filé do Rio）」を自負しているようだ。また、料理は、金



▲ Filé Mignon a Oswaldo Aranha (店の HP より)

属製の楕円形のお皿の上にあふれるほどに盛られてきて、白い上着にボウタイのウェイターがそれを客のお皿に恭しくサーブするという伝統的なやり方が守られているようだ。店の壁には VEJA 誌付録冊子『VEJA RIO』のレストラン・ランキング上位入賞の常連であることを示す多数のプレートが飾ってある。

ここで最初の話に戻るが、果たして詩人カストロ・アルベスがこの店に通ったのかどうか何か文献等に記載されていないか探してみた。答えは簡単に見つかった。この店の創業は、1874 年、カストロ・アルベスが 24 歳にして肺病で夭逝したのが 1871 年であった。どうして壁に彼の肖像と詩が掲げられていたかについては定かでないが、そこに何か物語があるのではないかと想像してしまう。詩集に記載のクロノロジーによれば、彼の才能の芽生えは早く、すでに 14 歳にして初めての詩の朗読会が行われたとある。その後も各地で朗読会や舞台が行われるが、19 歳にして 10 歳年上の舞台女優 Eugénia Câmara と愛人関係になり、1968 年には、彼女とともにリオを訪問し、朗読会などを開いている。その際、交流したと伝えられる関係者の中には、José de Alencar や Machado de Assis といった文豪も含まれる。Machado de Assis は、この店の常連の一人であったというから、実際の創業（1974 年）の数年前にこの店があったとしたら、おそらくカストロ・アルベスを連れて行って飲み明かしたに違いない（MK）

食と化学で未来を拓く



日本とブラジルで地元産の果実を用いたワインを造ります。

ワイン醸造・販売

● 有限会社ホンダワイナリー

〒969-3133

福島県耶麻郡猪苗代町大字千代田字千代田3番7号

TEL/FAX : (0242)62-5500

<https://www.hondawinery.co.jp/>



SKB (Showa Kako do Brasil Ltda.)

ポルトアレグレ郊外

ホームページ準備中

正社員の募集に対して、多数のご応募をいただきましてありがとうございました。



昭和化工株式会社

〒564-0054 大阪府吹田市芳野町 18-23

TEL:06-6384-1501

mail : Personnel_LaborDivision@showakako.co.jp

<http://www.showakako.co.jp/>



日本ブラジル中央協会

法人・個人・学生 新規会員募集中

会 員 数 法人会員 106社 個人会員 約480名 (2022年2月現在)

当協会の活動目的「日本・ブラジル両国間の相互理解・友好関係の促進に寄与する」
にご賛同・ご支援頂ける方に、会員となることをご検討いただければ幸いです。

会員特典

1. 協会会報「ブラジル特報」の無料配布。
隔月発行、年6回配布。
2. 会員価格にて、講演会等のイベント、ポルトガル語講座に参加できます。(会員限定イベントへも参加いただけます)
3. 会員交流懇親会へ参加いただけます。
4. 会員宛にメールでお伝えする、様々なブラジル情報をご覧頂けます。
5. ホームページにて、会員限定情報をご覧頂けます。

年会費

※入会金は不要です

法人会員 1口 20,000円 / 個人会員 1口 10,000円
(2口以上) (1口以上)

お申し込み



《日本ブラジル中央協会公式HP》

<https://www.nipo-brasil.org>

日本ブラジル中央協会 検索

「ブラジル特報」は一部有名書店の店頭でも入手できます。

春期ポルトガル語講座のご案内

受講生募集開始!

当協会では、“楽しく学ぼう! 学んで話せる
ポルトガル語!” をモットーに実用ポルトガ
ル語講座を開講しております。

春期ポルトガル語講座は、
2022年4月5日～7月8日まで開講。

※詳細は、HP を参照下さい。
<https://nipo-brasil.org/portugal/>

コースのご案内

- ◆全くの初心者コース【火曜 16:30 ～】
- ◆全くの初心者コース【火曜 19:00 ～】
- ◆初級Ⅰコース【金曜 19:00 ～】
- ◆初級Ⅱコース【水曜 19:00 ～】
- ◆中級コース【月曜 19:00 ～】
- ◆上級コース【木曜 16:30 ～】
- ◆上級コース【木曜 19:00 ～】
- ◆上級会話コース【隔週土曜 11:00 ～】

イベントのご案内

サボイア駐日ブラジル大使 オンライン講演会

日 時：2022 年 3 月 9 日 (水) 10:00 ～ 11:30 <日本時間>
開催方式：zoom ウェビナー
主 催：ブラジル大使館又は日本ブラジル中央協会

二宮正人サンパウロ大学教授 オンライン講演会

日 時：2022 年 3 月 15 日 (火) 12:00 ～ 14:00
演 題：4 年目のボルソナーロ政権に思う
開催方式：zoom ウェビナー
参加費：[会 員] 無料 (法人会員の在ブラジル子会社の駐在員も含む)
[非会員] 1,000円

ブラジル駐在夫人ガイダンスセミナー

日 時：2022 年 3 月 26 日 (土) 9:30 ～ 12:00
開催方式：ZOOM オンライン
講 師：伊藤 智晴 (元丸紅駐在員夫人)
山口 セシリア (在サンパウロ、長年サンパウロで日本企業に勤務) 他多数
参加費：会員所属企業の駐在員の配偶者 2,000 円 非会員 3,000 円
(夫婦で参加の場合は、+1,000 円)

“蒼天よりも高く”

突き抜けるような雲ひとつない青い空 — 蒼天(そうてん)

モンゴルは蒼天の国です。そのモンゴルでリーディングバンクとして活躍している

銀行がTDBです。日本とモンゴルの間の貿易・投資に関わる貿易金融や

外国為替を取り扱っています。私たち東京駐在員事務所はモンゴルの蒼天につながる

日本の玄関口です。日本のお客様からのご相談をお待ち申し上げております。



モンゴル貿易開発銀行東京駐在員事務所

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-4-1

丸の内永楽ビル2303

TEL: 03-4588-3945

FAX: 03-4588-3947

<http://tdbm.jp/>

詳しくはコチラ→



◎最寄り駅：東京メトロ東西線大手町駅B1出口直上



360° business innovation.



世界の未来を、ブラジルとつくる。

[Business innovation-1]

鉄道と港湾を一体化させ、物流を効率化。

鉄道網と港湾ターミナルの複合一貫サービスを提供するVLI社に出資参画。
たとえばサントス北西のティプラム港で、取扱貨物を次々と拡大。

[Business innovation-2]

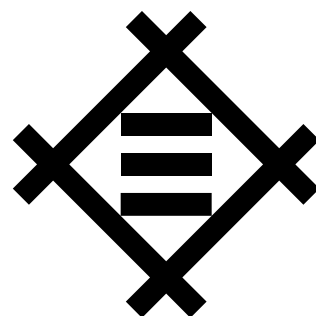
貨車リースで、全土に広がる陸上輸送モデルを確立。

MRCLA社を通じてリース事業を展開。貨車6,000両以上、機関車20両以上で国じゅうを縦横につなぎ、穀物・肥料・鉄鋼製品・燃料などを運搬。物流の安定化に貢献。

[Business innovation-3]

現場のニーズに細やかに応える農薬事業で、農業の発展を。

オウロフィーノ社に出資参画。大規模な農地が多いブラジルで、
気候条件に適した農薬製剤を開発。作物の順調な生育を農薬で支え、
増産や品質向上に貢献。



世界の未来を、世界とつくる。三井物産

MITSUI & CO.